

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

記入日 2010年1月22日

1. 概要

実践団体名	釜石市立釜石東中学校		
連絡先	代表 平野 憲 (0193-28-3010)		
プランタイトル	EAST-レスキュー		
プランの対象者	小学生・中学生・教職員・地域住民・高齢者・保護者・防災関係者	対象とする災害種別	地震・津波・水害・土砂災害

【プランの目的・ここがポイント！】

津波が来ても、避難して死者0を目指す！！

- 1 自分の命を自分で守る・・・避難することの大切さ 避難してよかったね
- 2 助けられる人から助ける人へ・・・災害弱者への支援
- 3 防災文化の継承・・・保護者地域への発信

【プランの概要】津波が来ても避難して、死者0を目指す！

- 第1弾・・・小中合同避難訓練（弱者への支援、地域・行政との連携）
 第2弾・・・宮古工業高校との連携「津波の浸水模型を使った」出前授業から学ぶ
 第3弾・・・「安否札1000枚大作戦！！」（H22より3年計画で地域全戸に配布予定）
 第4弾・・・「防災ボランティアスト」（全校生徒が10コースに分かれ、体験学習）
 第5弾・・・目指せ！EASTレスキュー隊員1級（地域の一員として活動できる生徒）
 平成22年度からこのスタイルで防災教育を推進することにした。

【期待される効果・ここがおすすめ！】

「目指せ！EASTレスキュー隊員1級」を合言葉に防災教育を推進している。

- 1 いつ来るかわからない「地震・津波」だが、万一の時は「避難する」ことが大切！
「自分の命は自分が守る」ことが実践できるはず。
- 2 中学生が率先避難することにより、保護者や地域の方々も避難するようになるはず。
- 3 津波のメカニズムや怖さを学んだ中学生が大人になれば、地域が災害に強くなるはず。
- 4 この活動をとおして、中学生・保護者・地域・行政・関係機関が連携すれば、災害に強い街づくりになるはず。
- 5 顔見知りになり地域の連携ができれば、みんな元気に安心して生活できる地域になるはず。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

2. プランの年間活動記録

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
2010年 4月	年間計画 第1弾 小中合同 避難訓練立案	職員の共通理解 小学校と打ち合わせ 市防災課と打ち合わせ	職員会議で確認（チーム防災）
2010年 5月	第2弾 宮古工業 高校出前講座依頼 と立案	鶴住居防災センターと 打ち合わせ 避難所と打ち合わせ	5月10日（月）オリエンテーション （全校生徒に説明） 5月26日（水）小中避難訓練
2010年 6月	第3弾 安否札1 000枚配布大作 戦立案	宮古工業高校と打ち合 わせ 安否札1000枚作成 地区集会開催	
2010年 7月	第4弾 防災ボラ ンティースト立案	町内会長さんと打ち合 わせ	7月5日（月）宮古工業高校出前講座 7月24日（土）安否札1000枚配 布大作戦！！
2010年 8月		講師と打ち合わせ	
2010年 9月	文化祭発表立案	グループ分け リーダー決め 生徒・講師と顔合わせ	9月29日（水）防災ボランティース ト
2010年 10月		学年でまとめる	10月24日（日）文化祭でまとめ発 表
2010年 11月			地区防災センターに掲示

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム①】

タイトル	第1弾 小中合同避難訓練
実施月日（曜日）	5月26日（水）
実施場所	小中学校から避難所（ございしよの里）へ
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：村上洋子 所属・役職等：釜石東中学校 副校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	13:30～14:20 1時間
プログラムのカテゴリ、形式	16 避難・防災訓練
活動目的	4 災害を想定した訓練
達成目標	平成22年度は11分以内 釜石市・・・津波到達予想34分（平成21年度は、避難11分10秒）
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1 小学生と一緒に安全に避難 2 具合の悪い生徒や怪我をしている生徒など支援しながら避難 3 警察署・消防署の支援 4 地域・町内会の皆さんも一緒に避難訓練に参加
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	携帯電話・携帯ラジオ・安全旗・ハンドマイク・ストップウォッチ・誘導灯・AED・救急用具・リアカー・クラス名札・ホイッスル
参加人数	小学生361名 職員29名、中学生217名 職員21名 地域
経費の総額・内訳概要	約3,000円（通信費・用紙代・電池等）
成果と課題	【成果】小中合同避難訓練2年目、地域の方の参加を得られた。 小学生を支援しながら避難できるようになった。 【課題】避難所は外なので、避難生活時間が長くなった時のこと。
成果物	

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム②】

タイトル	宮古工業高校から学ぶ（津波浸水模型を使った出前講座）
実施月日（曜日）	平成22年7月5日（月）
実施場所	釜石市釜石東中学校 体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名： 山野目 弘 所属・役職等： 県立宮古工業高校 課題研究班 指導者
所要時間または「コマ数×単位時間」	20分×6回＝120分
プログラムのカテゴリ、形式	2 講習会 学習会
活動目的	6 防災に関する知識を深める 8 防災意識を高める
達成目標	津波のメカニズムを知る
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1コース 津波模型の実演（宮古工業） 2コース 過去の被害状況（宮古工業） 3コース 釜石市の被害状況写真（宮古工業） 4コース DVD「てんでんこレンジャー」（釜石東中） 5コース DVD「津波防災劇」（綾里小） 各コースを学級ごとに回り学習する。 感じたこと・学んだことを感想文形式でまとめる。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・津波のメカニズムを実演する模型・・・宮古工業 ・津波被害の写真等・・・宮古工業 ・パソコン・プロジェクター・スクリーン・大型テレビ
参加人数	中学生217名 職員21名 地域10名
経費の総額・内訳概要	宮古工業高校出前講座28,820円 印刷等14,210円
成果と課題	【成果】津波模型の実演により、津波の怖さやメカニズムを知ることができた。 【課題】両石湾や大槌湾の津波に対する警戒、避難経路など。
成果物	全校生徒の感想文集

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム③】

タイトル	安否札1000枚配布大作戦！！
実施月日（曜日）	7月24日（土）
実施場所	釜石市立釜石東中学校区全域
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名：村上洋子 朝倉貴子 所属・役職等：釜石東中学校 副校長 整美委員会担当
所要時間または「コマ数×単位時間」	朝8：00～9：00ごろをめぐりに活動
プログラムのカテゴリ、形式	1 イベント・行事
活動目的	8 防災意識を高める
達成目標	中学校区に3000件余りの世帯がある。3年計画で全家庭に安否札を配布する。今年度1年目。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1 第1回 生徒地区集会（地区長・副地区長決め、名簿作成） 2 学級ごとに1人5枚の「安否札づくり」 3 第2回 町内会長、保護者地区長、担当教師、生徒との顔合わせ会（当日の配布について打ち合わせをする） 4 第3回前日最終確認（集合場所・時間確認、渡し方など練習） 5 当日
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	1 安否札1000枚（A4手書き札 ラミネート） 2 安否札1000枚大作戦について（説明資料） 3 整美委員長から防災豆知識（手書き資料） 4 町内会長・保護者地区会長・防災センターとの連携
参加人数	全校生徒217名 職員21名 町内会長・保護者 約40名
経費の総額・内訳概要	約100,000円（安否札1000枚作成、ラミネート、マジック等）
成果と課題	【成果】町内会長や保護者の支援・協力を得て、1000軒以上に安否札を配ることができた。 【課題】今後2年、継続して活動していくこと。
成果物	安否札1000枚 感想文集

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム④】

タイトル	防災ボランティアスト
実施月日（曜日）	9月29日（水）
実施場所	釜石東中学校体育館・グラウンド・教室、市民プール、宝来館等
担当者または講師	担当者・講師等の区分：講師 多数 防災マップ（浦山文男）救急搬送（釜石消防署）応急処置（日赤） 水上救助（日赤）炊き出し（宝来館）防火練習（釜石消防団） 両石地区（瀬戸元）片岸地区（柏崎龍太郎）風水害（气象台） 海難救助（海上保安部）
所要時間または「コマ数×単位時間」	100分程度
プログラムのカテゴリ、形式	1 1 出前講座 1 3 体験学習
活動目的	4 災害を想定した訓練 7 技術を身につける
達成目標	助けられる人から助ける人へ
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1 10コースに分かれ、体験学習をする ①防災マップづくり ②救急搬送 ③救急処置 ④水上救助 ⑤炊き出し ⑥防火練習 ⑦両石地区フィールドワーク ⑧片岸地区フィールドワーク ⑨風水害 ⑩海難救助 2 全校・全職員体制で災害に備えて学習する
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	1 各コースに講師を招聘し、学習 2 各コースで必要なもの準備 3 ロープ、三角巾、消火器、バケツ、担架、非常食の材料など
参加人数	全校生徒217名 職員21名 地域・行政等70人程度
経費の総額・内訳概要	約50,000円（炊き出し材料、プールまでのバス代、三角巾等）
成果と課題	【成果】コースごとに助けるための技術や技を学んだ 3年間実践することで、3種類は受講できる。 【課題】地域や学校の実態に即したコースの設定。
成果物	生徒感想文

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

【実践プログラム⑤】

タイトル	目指せ！EASTレスキュー隊員1級！！
実施月日（曜日）	中学校生活3年間を通して
実施場所	地域全体
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 氏 名：村上洋子 所属・役職等：副校長
所要時間または「コマ数×単位時間」	通年を対象としている
プログラムのカテゴリ、形式	17 ボランティア活動
活動目的	10 地域の人に役立つ。顔見知りになり災害に強い地域にする。
達成目標	2級5ポイント、1級10ポイント それぞれ30人以上を目指す。
実践方法・進め方（箇条書き、またはフロー）	1 自分で進んで地域の行事に参加する（祭り、避難訓練、運動会など） 2 自分から進んでボランティア活動（公民館清掃・トライアスロンの手伝い、近所の老人世帯の雪かき・ガラス磨きなど） 3 ポイント5点で2級を認定（全校朝会で表彰） 4 ポイント10点で1級を認定（全校朝会で表彰）
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	1 名札 2 シール 3 自己申告書 4 認定書
参加人数	全校生徒217人、職員23人、計240人 12月20日現在 2級13人 1級11人
経費の総額・内訳概要	約12,000円（名札作成、シール、認定証発行等）
成果と課題	【成果】生徒がどんな活動をしているのか、教師にも見えるようになった。地域の方が中学生の出番を期待してくれる。顔見知りになり地域の方々も元気になっている。 【課題】自己申告した生徒が2級14人、1級14人。
成果物	認定証・名札等

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>「助けられる人から助ける人へ」をどのようにして、形に表すか。そのことをボランティアスト5級～1級に認定していくことで形に見えるよう工夫した。</p> <p>防災教育の年間計画などをどのように立案するか、地域と連携するにはどうしたらよいか。さまざまな悩みがあったが、1つ1つの行事を形にしていく中で、協力者が増えていったこと、たくさんの人たちに出会えたことが成果。</p> <p>先駆的に取り組んでいた教師が転勤し、誰が、何を、どうするか苦勞した。各学年1人の代表と副校長の4人チームで起案した。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p><苦勞></p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育は、何をどのように整備し、年間計画を立案するか。暗中模索だった。 (チャレンジプランを参考にした) ・活動するための費用の確保 (チャレンジプランの活用・釜石市からの援助) ・地域や保護者の協力・支援をもらうための手はず、人が分からないために苦勞した。 <p><工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒・保護者・地域の意識改革をするための防災学習を企画しようと工夫した。 ・防災教育とボランティア活動を同時に推進するように工夫した
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<p><苦勞></p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間確保が難しかった。隙間の時間や生徒の自主的なボランティア作業(1000枚ラミネート)が大きな原動力になった。 ・生徒や教師、町内会長・保護者の4者が同時に行う「安否札1000枚配布大作戦」は、時間設定が難しかった。(7月24日夏休み初日の土曜日朝に実施) <p><工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ・全校生徒の指導に全職員であたること。(無理なく全員で) ・担当者が代わっても継続できる防災教育にしようと考えて実践している。 (安否札1000枚配布・・・3年計画) ・毎年同じようなスタイルで計画するが、プログラム②の講演会で、その年度の特徴も出せるようにした。(H22宮古工業高校出前講座 H23自衛隊の救助活動の実際を計画中)

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	釜石市教育委員会 群馬大学大学院 片田教授	指定・研究発表会 防災教育推進に係る助 言・指導
保護者・ PTAの組織	地区会長（保護者） PTA	安否札配布協力依頼 安否札配布（地区集会）
地域組織	全町内会 両石・片岸地区 鵜住居地区消防団 鵜住居町内会	安否札配布依頼 津波の被害学習会講師 防火練習 防災マップづくり
国・地方公共団体・ 公共施設	釜石市役所 鵜住居地区防災センター 釜石消防署 市民プール 釜石保安部 盛岡气象台	防災教育全般協力依頼 防災教育全般協力依頼 救急搬送 水上救助 海難救助 風水害（出前講座）
企業・ 産業関連の組合等		
ボランティア団体・ NPO法人・NGO 等	赤十字奉仕団・日赤安全奉仕団	応急処置・水上救助
職業、職能団体・ 学術組織、学会等		

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒たちの防災意識が向上した。 <ul style="list-style-type: none"> ・DVD「てんでんこレンジャー」をポリスチャンネルに登録し、津波の避難に大切さを全国の皆さんに発信している。 ・登下校時に小学生を見守ろうという意識が向上した。 ・津波注意報や津波警報が発令されたら、避難しようと考えようになった。 ・万一の時は、自分たちが役に立ちたいという意識が芽生えた。 2 地域の方々との連携が深まった。 <ul style="list-style-type: none"> ・鶴住居地区会議で小中学校の防災教育が認められた。 ・地域の方が来校する機会が増え、地域と生徒が顔見知りになり、地域の方々も元気になっていると感じる。 3 視野が広がっている。 <ul style="list-style-type: none"> ・防災教育を通し、さまざまな方と出会うことができ、視野が広がっている。
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 防災教育について、はじめは暗中模索で取り組み始めたが、たくさんの方々に出会い、多くのことを教えられた。まず、地域の弱み・強みを知ることができた。 2 全校生徒・全職員・地域全体を対象に、防災教育を推進していくことの大切さを感じている。 3 中学生の時期に、防災教育を学んだ大人が多くなり、災害に強い町づくりができると感じている。減災の意識を高め、防災に今後も取り組んでいきたい。
<p>今後の 継続予定</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 「安否札1000枚配布大作戦！！」は3年計画で、全戸配布を目指します。 2 目指せ！EASTレスキュー隊員1級！で、生徒の自発的な活動を推進します。 3 「助けられる人から助ける人へ」の防災の取り組みを継続します。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ①

<EASTレスキュー>

第1弾 小中合同避難訓練



- ・小学校と合同避難訓練は、定着してきた。(助けられる人から助ける人へ に意識向上)
- ・避難所に指定されているのは、老人福祉施設(ございしょの里)の駐車場。
(水道・トイレは使える)
- ・校舎は築38年を経過し老朽化が進んで、耐震対策を取らなければならない。地震の後に津波が襲来するときは避難しなければならない。(小中学校は津波の避難所の指定はない)

第2弾 宮古工業高校出前講座



- ・H21「ぼうさい甲子園」で知り合った宮古工業高校の出前講座。
模型による津波を目の当たりにし、避難することの大切さを実感した。また、語り伝えることの大切さも学んだ。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

7. 自由記述欄 ②

第3弾 安否札1000枚配布大作戦！！



- ・平成21年度の生徒が考案し、100軒に配ったら、地域に好評だったので、平成22年度から3年計画で中学校区全世帯（3000軒余り）に配布しようと考えた。
- ・生徒の手書きの「安否札」は、地域と生徒を結ぶ架け橋になり、顔見知りになることで災害に強い町づくりに貢献できる住民の育成につながることを期待できる。
- ・町内会長さんやPTAの協力を得て、今年は1000軒以上配布できた。
- ・今後は、避難訓練などの時に活用してもらいながら、課題点を改善しようと思う。

<第4弾 防災ボランティアスト>



- ・生徒会活動・整美委員会活動として、生徒が中心になり活動した。
- ・全校生徒を約20人のグループに分け、体験学習を行った。3年間で3回学習をすれば、万が一災害があった時に「助ける人」になれると考えた。
- ・さまざまな視点から、講師の先生方を選定している。地域の方に教えられ、育てられていると感じる。
- ・専門家（消防署・赤十字奉仕団・日赤奉仕団・気象台・消防団・海上保安部等）の協力を得て、活動が充実した。

防災教育チャレンジプラン 最終報告書

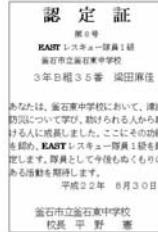
7. 自由記述欄 ③

<第5弾 目指せ！EASTレスキュー隊員1級！！>

第5弾 EASTレスキュー隊員1級合格者

- ・生徒の励みとするための学校独自の1級から5級の認定制度(認定証・名札)
- ・防災の学習や生徒会活動の活動内容や感想を記録
- ・積極的に地域のボランティア活動や行事に参加した生徒には、**1, 2級**を認定

第5弾 EASTレスキュー隊員1級合格者



- ・ボランティア活動への関心と意欲の高揚
- ・地域の活動への積極的な参加

- ・1月20日現在、2級14人、1級14人と少なめだが、今後のボランティア活動で人数は増えると考えます。
- ・地域の方々との触れ合いで、顔見知りになる。そのことが、地域を元気にし、万一の災害時には、助け合える環境につながるだろう。

<最後に>



最後に・・・ これまでの活動を終えて

- 防災をテーマとして、小学生・高校生・地域の方・専門家との交流を図ることができた。
- 5つのプログラムを設定することで、生徒の意欲や積極性を引き出すことができた。
- 実際に避難を必要とする災害が起きたときの対応が十分とはいえない。学校・地域・行政の連携が必要である。

- ・近い将来起こるといわれている三陸沖地震に対する備えはまだまだ十分ではない。今後も、学校から情報や活力を発信しながら、保護者・地域・行政・他団体などと連携し、継続した防災教育を行っていきたい。